

1. 基本情報

- (1) 国名：ウガンダ共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名 北部地域（アチョリ，西ナイル，ランゴ）
- (3) 案件名：北部ウガンダ地域医療施設改善計画（Northern Uganda Medical Facilities Improvement Project）
- (4) 事業の要約：本事業は，ウガンダ北部のアチョリ地域（グル），西ナイル地域（アルア），ランゴ地域（リラ）の三つの各地域中核病院において，施設の建設及び機材の整備を行うことにより，地域のリファラル病院としての機能強化を図り，もって同国の生活環境整備に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
ウガンダでは、「国家保健政策 II」（2010/11 年～19/20 年）において，医療人材の育成，医薬品の普及，財源の確保とともに，保健インフラの整備が政策上の重要課題として位置付けられており，これを踏まえ，「保健セクター戦略・投資計画」（2010/11 年～14/15 年）においても，保健サービスへのアクセス及び質の改善が重視されている。これらの政策を基に，ウガンダ政府は，保健インフラ強化策の一環として，基礎医療施設の機能向上及び保守管理体制の強化並びに地域医療体制の整備を通じたリファラル体制の構築（国立病院-地域中核病院-県病院-保健センター）を進めてきた。しかしながら，保健サービスの質及びアクセスの改善が進む一方，各地域中核病院では患者数が増加しており，施設・機材の一層の改修・拡充が急務とされている。特に，1980 年代から約 20 年続いた内戦の影響を最も受けた北部地域は復興の途上にあり，1930 年代に建設された域内の三つの地域中核病院（グル，アルア，リラ）は，幾度か改修は行われているものの老朽化が著しい。さらに，国境を接している南スーダン共和国及びコンゴ民主共和国からの難民の流入が，同地域の人口増加（単純増は 3%超）に拍車をかけており，外来患者数が毎年約 30%ずつ増加していることから，既存の施設では収容能力の限界に達している。このため，地域中核病院の施設・機材の整備を通じ，保健サービス提供の体制強化を図ることは，北部地域において喫緊の課題となっている。

- (2) 保健セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

我が国は対ウガンダ共和国国別援助方針（2012 年 6 月）において「生活環境整備（保健・給水）」を重点分野に位置付けており，「地方の中核医療施設・機材の改善・拡充と機材の維持管理技術向上，病院運営及びサービスの改善を行う」ことを掲げている。なお，我が国は，これまで地域医療施設・機材の整備を目的として，主に東部，中央，西部地域に四度の無償資金協力（2002，2005，2009，2013 年度 E/N 署名）を行ったほか，地域医療施設のマネジメント及び利用改善を目的として，「保健インフラマネジメントを通じた保健サービス強化プロジェクト」（2011～14 年）等の技術協力を実施した。

(3) 他の援助機関の対応

米国開発庁（USAID）を始め、欧米ドナーが感染症対策、母子保健を対象とした事業を実施している。世界銀行やアフリカ開発銀行（AfDB）は病院施設建設を支援している。

(4) 本事業を実施する意義

本事業対象地域は、内戦の影響を最も強く受けたほか、現在は治安の不安定な周辺国からの難民を多く受け入れていることもあり、ウガンダ政府からの本事業に対する関心は従来から高い。加えて、本事業の実施により、過去の事業と合わせて、ウガンダの東部、中央、西部、北部地域の医療施設、設備の整備を我が国が支援したこととなるため、外交上の意義は大きい。同地域の保健サービス提供体制の強化は人道上のニーズが極めて高く、また、平和の定着を実感させることにもつながることから、無償資金協力としての本事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、ウガンダ北部のアチョリ地域（グル）、西ナイル地域（アルア）、ランゴ地域（リラ）の三つの各地域中核病院において、施設の建設及び機材の整備を行うことにより、地域のリファラル病院としての機能強化を図り、もって同国の生活環境整備に寄与するもの。

② 事業内容

ア）施設・機材等の内容：[施設] 病院外来・救急棟、産科病棟等の改修・拡充

[機材] 外来処置・診断機材、救急処置機材等

イ）コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：保守管理活動及び機材運用を強化するための技術指導

ウ）調達・施工方法：競争入札

③ 他の JICA 事業との関係

全国 14 か所の地域中核病院を対象に技術協力「保健インフラマネジメントを通じた保健サービス強化プロジェクトフェーズ 2」を 2016 年度に開始予定。同プロジェクトにおいて施設・機材維持管理の強化を図ることにより、本事業との相乗効果が期待される。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制

保健省病院サービス部保健インフラ課（Health Infrastructure Division, Department of Clinical Services, Ministry of Health）

② 他機関との連携・役割分担

北部地域では、USAID が「AIDS 対応システム強化プロジェクト」（2010 年～）により感染症対策を実施し、イタリア外務省開発協力総局が「グル地域中核病院放射線科整備計画」（2015 年）により整形外科部門を支援している。両案件では、本事業対象病院へのラボ及び診断機材の整備が含まれており、本事業と補完的な協力となるよう調整する。

③ 運営／維持管理体制

同じ実施機関を対象に、国内の他地域において本事業と類似した無償資金協力を実施した実績があるが、病院内の維持管理能力や予算負担については、各病院の体制に依拠するため、協力準備調査にて改めて確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 □A □B ■C □FI

② カテゴリ分類の根拠：

本プロジェクトは「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ影響を及ぼしやすい特性や地域に該当しない。

(4) 横断的事項

北部地域は復興の途上にあり、開発の遅れた地域であることから、本事業による保健医療サービスの向上と体制強化は南部との格差是正や保健省と地域中核病院及び地域住民等との信頼関係構築に貢献しうる。なお、①保健省と本事業対象病院との関係性、②裨益対象地域、受益者の妥当性、③人口の流動性（難民等の流入・流出）等について協力準備調査で確認する。

(5) ジェンダー分類

ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項

特になし

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

ウガンダ国保健セクターの過去の無償資金協力では、供与したX線撮影装置が停電及び不安定な電圧が原因で故障したが、修理代を病院側が負担することができず適切に修理されなかったことから、類似の機器を調達する際には、電力の安定化及び日頃の適切な保守・管理体制の構築が必要であると事後評価において指摘された。本事業では、病院側の技術レベルや維持管理体制、修理代捻出の現状を踏まえつつ、供与機材の内容を検討する。また、同時期に実施予定の技術協力プロジェクトを通じ、適切な維持管理体制を構築する。

以 上

[別添資料] 地図

